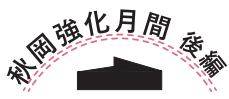


オケクラフトセンター
森林工芸館の
あれこれ

今日は秋岡コレクションについて少しだけ
紙面では足りないけれどお伝えしていきます
目に触れる機会が少ないからこそ
これまで知らなかつた
みなさんに伝えたい
秋岡コレクションの「あれこれ」

「秋岡コレクションって何ですか？」
名前は知っています
詳しくは知らない
どこで見られるの？
何のためのもの？
どうして置戸にあるの？

no.07
10
2020



秋岡コレクションって何？

きほんのおはなし

- 1994年 どま工房開設
- 1997年 置戸町へ秋岡コレクションの一括寄贈
- 1999年 どま工房での常設展示開始
- 2007年 秋岡コレクション資料集第1集「鉋 その一」発刊
- 2018年 秋岡コレクション資料集第28集「秋岡作品 竹とんぼ」終刊

【秋岡コレクションとは】▶オケクラフトの生みの親である故 秋岡芳夫さんが、半生をかけて収集した日本の生活道具や宮大工の道具など約 6,500 点と、関連図書や映像資料などを合わせた 18,000 点からなる資料。



pick up



人と、木と、おかげ

【どうして資料を集めたの？】

秋岡さんは、工業化社会の中で失われていく手の技、特に優れた日本の木工技術を未来へ継承する為にこれらの道具を収集し、また「手仕事の復権」をライフワークとして取り組みました。

五感の全てを通して道具とつき合う「モノの図書館構想」の具体例としてデザインされたどま工房では、秋岡さんを講師に「どま塾」が開催され、秋岡コレクションのこと、手道具の扱い方、手入れの仕方などを町民に伝えてくれました。



【どこにあるの？】

6,500 点もの資料はどこにある？…答えは「どま工房」です。ただ、どま工房では収納しきれないでの、その他にも倉庫があります。

手仕事道具集は終刊を迎える、データ整理は一区切りつきましたが、まだこの先も資料整理は続けられます。



資料倉庫の様子

【なぜ、置戸町？】

1983 年、置戸町民憲章推進大会に講師として初来町した秋岡さんとの交流は、置戸のまちづくりに大きな影響を与えました。そのひとつが生活工芸資料（後の秋岡コレクション）の寄贈です。

秋岡さんは「社会教育に力を入れているのが気に入った」「鏡に来た人に触れて、使って、貸し出すモノの図書館として機能することができるなら」と、その半生をかけて収集した資料を、置戸のまちづくりのために寄贈しました。



【どんな資料があるの？】

- A) 製作のための道具
- B) 食のための道具
- C) 暮らしのための道具
- D) 生業のための道具

この 4 種類が基本となり、その他に秋岡さんの作品（竹とんぼやニマ）などと、分かれています。



秋岡コレクション企画展の様子





塾生さん、いま何してる？



『数をこなす経験』



仕上げ削りきしていきま

メジロカバの特徴については「あれこれ no.4」をcheck!

▼二年生の前田さんは、八月から一度にたくさんの作品を作り練習をしています。「あれこれ no.4」で紹介した通り、作り手は効率よく生産するため、一ヶ月の中でスケジュールを組んで作業をしています。ベテランの作り手になると、多い月で三百個もの商品を製作することになります。手になると、多い月で三百個の商品を製作することになります。

前田「今回は丈夫さを意識して製作しています。木材はメジロカバを使っていているので、硬くて削りづらいですが、材料自体に強い丈夫さがあります。同じものをひたすら作る作業は、時間を忘れて没頭できます。」

現在、仕上げ削りをしており、その後塗装をして完成です。

手になると、多い月で三百個の商品を製作することになります。

前田「今回は丈夫さを意識して製作しています。木材はメジロカバを使っていているので、硬くて削りづらいですが、材料自体に強い丈夫さがあります。同じものをひたすら作る作業は、時間を忘れて没頭できます。」

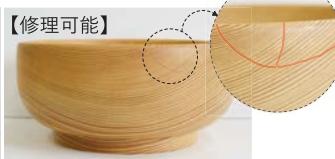
今月の一品



商品名：木の葉箸置き
サイズ：幅 25mm
長さ 80mm
高さ 15mm
価格：600円（税抜き）
樹種：エゾマツ、ナラ他

森のリレー8月号では、「木々の生長する時間」として、長い時間をかけて魅力ある樹木へと生長していく、その過程を教えてもらいました。オケクラフトは、その長い年月をかけた樹木の命をいただいて製作されています。樹木としての生長は止まってしまいますが、今度は皆さん的生活の中で、形を変えゆっくりと成長の時を刻みます。オケクラフトの生みの親である故 秋岡芳夫さんは、高度経済成長期の大量生産・大量消費が進む日本社会において、「消費者ではなく、愛用者になろう」と、提唱し続けました。

オケクラフトは、壊れても修理をして使い続けられます。愛着を持って使うことで、艶が全体にあらわれます。皆さんの生活に寄り添いながら、第二の成長の時を刻むオケクラフト。ぜひ皆さんも愛用者となって、オケクラフトの成長を楽しんでください。



ショップ販売員 青木

秋岡コレクション関連企画

「縄文式木工 - ニマの器をつくろう」

日程：①10月25日(日)

②11月 8日(日)

③11月22日(日)

13:00~16:00

場所：どま工房

定員：各回3名

講師：那珂琴絵（どま工房研究員）

参加費：1,500円（当日持参）

対象年齢：18歳以上

参加受付

10月1日(木)~10月11日(日)

◎森林工芸館(52-3170)、どま工房

(53-2222)まで

ご連絡ください。



第29集 日本の手仕事道具 - 秋岡コレクション企画展

「ドマしよう。- あそんでならってあじわって」

今年、生誕100周年を迎える秋岡芳夫さんが、置戸でどのような活動をしてきたのか。どま工房の視点から捉えた軌跡を関連する秋岡コレクションとともに展示します。秋岡さんが半生をかけて収集した生活資料を活かす場として、モノの図書館構想の思いが見られた置戸町のどま工房。「どま」という空間に秋岡さんが込めた思いを、「ドマしよう。」の言葉につなげる資料とともに展示で表現します。

会期：令和2年10月10日(土)~11月23日(月/祝)

月火休館(祝祭日は開館)

10:00~16:00

場所：どま工房

関連企画「縄文式木工 - ニマの器をつくろう」

白樺の生木から製作する樹の器。秋岡さんが縄文式木工と名付けて製作した器をみなさんも一緒に作りませんか？

「木はそるあばれる狂う生きているからだから好き」と、木のモノづくりを楽しんだ秋岡さんと同じように、木と対話しながら作ってみましょう。

詳細は、
森林工芸館HPを
check!